

農業分野の外国人材受入れに関する現地説明・相談会

インド グワハティ・デリー・アグラ

募集要項

1. 概要・趣旨

一般社団法人全国農業会議所は、農業分野の外国人材受入れ促進を目的に、農林水産省の事業にて海外で現地説明・相談会を開催しています。

現地の送出機関や教育機関の関係者を集め、技能実習や特定技能といった日本の外国人材受入れ制度を周知し、農業で働く魅力を PR することが主な目的です。

この度、インドの北東部アッサム州グワハティで開催し、またデリー及びアグラで送出機関や農業大学などの関係機関を訪問します。

このことについて、外国人材の雇用に関心のある農業者や、監理団体・登録支援機関の参加を募集します。参加される皆さまには、日本農業の働く環境や魅力を伝えていただくとともに、次のようなことを趣旨に現地機関や人材と交流いただきます。また、送出機関等の視察も行います。

- ◆ インド人材送り出し事情を知る！
- ◆ 現地の人材と直接交流し雰囲気把握する！
- ◆ 現地の送出機関とつながり人材確保へ！

2. 日程表

※1月8日時点の行程であり、フライト情報及び説明会会場、訪問場所などは変更となる可能性があります。独自で航空券とホテルを手配される場合は、お申込み後に事務局から連絡が入ってからお手続きください。最新の行程は申込サイトをご確認ください。

3月8日(日)	
日本時間 10:35 発	羽田空港 NH837 便 ✈
現地時間 17:25 着	デリー空港
19:05 着	ホテル (Novotel New Delhi Aerocity)
19:30	夕食 ホテル泊
3月9日(月)	
9:00	ホテル発
9:30	【送出機関・教育機関】Furusawa 又はエデュテック訪問
13:00	デリー空港着
15:45 発	デリー空港 発 6E5118 便 ✈
18:05 着	グワハティ空港
19:30	夕食 ホテル泊

3月10日(火)	<グワハティー視察日>
8:30	ホテル出発
10:00~12:00	【送出機関訪問】Jaceex
12:30~13:30	昼食
14:00~16:00	【送出機関訪問】アセアンワン
18:30	夕食、ホテル泊
3月11日(水)	<グワハティー説明会>
午前	準備
13:30~17:00 頃	送出機関（候補生・職員）向け説明・相談会 会場：Novotel Hotel
18:00	ホテル 夕食
3月12日(木)	<デリー移動>
11:10 発	グワハティー空港 6E930 便
13:55 着	デリー空港
15:00~20:00	バスでアグラへ移動
20:30	夕食 ホテル泊
3月13日(金)	<アグラ視察日>
7:00	ホテル出発 バスで移動 🚌
8:00~9:00	市内散策等
10:00~11:30	R. B. (P. G.) College での校内見学
11:30~12:30	昼食
13:00~15:00	R. B. (P. G.) College での学生向け説明会
15:30~20:30	移動 ホテル泊
3月14日(土)	
9:00	ホテル発
9:30~11:00	【送出機関・教育機関】Furusawa 又はエデュテック訪問
12:00~15:00	移動・昼食
15:00	デリー空港着
18:55	デリー空港発 NH838 便
3月15日(日)	
日本時間 5:55 着	羽田着

<3月11日の説明・相談会の流れ>

	内容
①	開会・あいさつ
②	日本農業の働くための解説ビデオ視聴
③	質疑応答
④	参加受入れ機関・監理団体などの紹介（各社数分ずつ）
⑤	個別ブースでの相談会・送出機関の候補生や学生が対象
⑥	個別ブースでの相談会・送出機関や教育機関の職員が対象
<皆さまへお願いすること> ➤ 「参加機関からの経営紹介」でのプレゼン（数分程度） ➤ 「個別相談会」における候補生や学生の対応（参加者からの質問対応など） ➤ 「個別相談会」での送出機関職員等との交流（雇用に関する相談など） ➤ これらに使用する資料の作成・提供 ※資料の量や提供期日によっては、こちらで翻訳をいたします。 ※英語の通訳を配置します。（自前で通訳を用意する場合を除く）	
プレゼンや相談会対応の際のポイント （他国での開催時に外国人から関心が高かった内容） ・農場や住環境の写真や動画を映す ・（日本語の動画でも）テレビに取り上げられた動画を映す ・キャリアパスを提示し、中長期に就労する可能性を示す ・外国人材が働いている人数、住環境や生活の支援を説明	

3. 参加申込方法

①以下の参加申込ページにアクセスしてください。

<https://ntour.jp/india-recruitment/>

②本募集要項又は申込ページの内容をよく確認し、「お申込みはこちら（参加登録）」ボタンから必要事項を入力してください。

申込締切：2026年3月2日（月）

※航空券や宿泊の代理手配を希望する場合は、2月16日（月）

③入力したメールアドレスに参加登録の案内が届きます。

※申込多数の場合、先着や抽選などとさせていただく場合がございます。

④その後の段取りは個別にご連絡差し上げます。

<参加費用>

- 参加費は無料です。
- 渡航・宿泊・食事にかかる経費は各自ご負担ください。
- 相談会に対応した機関には1経営体につき、30,000円の謝金を後日支払います。

<参加資格>

- 農業分野で技能実習や特定技能などで既に外国人材を受け入れている、又は受け入れる意向があると認められる農業経営体又は派遣会社であること。
- 農業分野の受入れに対応している監理団体・登録支援機関であること。
- 本説明・相談会の趣旨を理解し、事前及び当日の行程について主催者と連絡調整し、指示にしたがうこと。

4. 渡航方法について

(1) 主催者とともに上記日程に沿って同行し渡航・参加する場合

- ・ご希望の場合は、主催者と同様の航空券、ホテルを旅行会社が手配します。
- ・ご自身で手配いただいても構いません。
- ・現地での移動は、すべて手配したバスに乗車いただけます。

【必要経費の概算額】 航空券…約23～28万円(手配時期により実勢価格は変動します)
宿泊費…約1～2万円×6泊分
食事代…実費相当

※運賃額をご購入時点で有効なものが適用となります。ご予約後、購入までの間に運賃・税金・運賃規則は予告なく改訂される場合がありますので、航空券購入時の実際の運賃額で請求させていただきます

※申込後にキャンセルされる場合、事情を問わずキャンセル時点で旅行会社から提示されたキャンセル料を徴収させていただきます

(2) 所定の日時に自身で会場に向かい、自由な旅程で参加する場合

- ・航空券や宿泊、現地の移動は原則各自でご対応ください。
- ・主催者の宿泊ホテルまたは近隣のホテルをご利用の場合は、現地の移動バスに乗りいただくことも可能です。(要相談)

5. 免責事項

本説明・相談会への参加によって損害等を被った場合、全国農業会議所では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

6. その他

本事業の年間契約や各国の特徴などを↓のサイトからご覧いただけます。

<https://agri-gaikokujinzai.info/>

[参考]インドの国民性と人材の特徴

① 多様な人種構成と地域別の人材特性

14 億人もの人口を抱えるインドは多様な文化や人種によって構成されており、日本人がイメージするターバンを巻いたシーク教徒はごく一部に過ぎません。地域によって、人種の特徴、気質や考え方は大きく異なります。

北インド（デリーなど）：

人口が密集する地域で、ウッタラプラデシュ州だけで 2 億 4 千万人近い人口を有します。夏には 50℃ 近くになる厳しい環境下での農作業に慣れている人材も多い地域です。

南インド（チェンナイなど）：

歴史的に、海外に移住するインド人を多く輩出してきた地域です。多様な言語環境で培われた高いコミュニケーション能力を持ち、日本語の習得が早い傾向があります。比較的肌の色が黒い人々が多い地域です。

北東州（インパールなど）：

ミャンマーやチベットに近い地域で、見た目が日本人に似たモンゴロイド系の人々が多く住んでいます。ヒンドゥー教徒が大多数を占めるインドのなかでもキリスト教徒が多く、食の嗜好に制限が少ないことから日本への適応のハードルが低いとされ、近年介護人材として注目され、日本全国で働く人材が急増しています。

② 農業セクターの現状と構造的課題

インドは IT 大国のイメージがありますが、農業は引き続き重要な基幹産業であり、国内の労働人口の約半数が農業関連産業に従事しています。しかし、このセクターは構造的な課題を抱えています。

インフラによる損失：

農産物の生産量は膨大であるにもかかわらず、道路などのインフラ整備の遅れや冷蔵・貯蔵施設の不足により、市場に届く前に大量の農作物が廃棄されています。

低収益構造：

小規模農家では耕作地の分散や機械化、農業技術の導入が遅れ、生産性が低くなっています。このため農作物の品質が低く、農家の収入が減少しています。

< 価格例 >

農家の出荷価格は、秋の収穫期を迎えた玉ねぎが 1 キロ 4 ルピー（約 7 円）、ジャガイモが 10 ルピー（約 18 円）と破格に安く、物価が高騰するインドにおいて農民の生活は極めて厳しい状況です。

環境要因：昨今の天候変動により、インドでも干ばつや洪水などの異常気象が頻発しています。地下水の過剰な採取による水資源の枯渇など、インド農業は多くの環境問題にも直面しています。

③ 日本との連携による可能性

こうした現状において、インドの人材を日本の農業分野に受け入れることは単に日本の人手不足を補うだけでなく、インド人材が日本の高い農産物の品質管理や生産管理ノウハウを実地で習得することで、インド農業が抱えるさまざまな構造的な問題（インフラ、品質、生産性）の解決に大いに貢献すると期待できます。

■ 日本で働く労働者数、うち農業分野の数（技能実習及び特定技能）

- ・ 技能実習：1,197 人（全体の 0.3%）
- ・ 特定技能：579 人（全体の 0.2%）、うち農業分野 24 人

※技能実習・特定技能ともに 2025 年 6 月末のデータ

■ 送出機関の数

- ・ 技能実習（S0：送出機関）：20 機関

※機関数は労働省が公開しているリストによるものであり、現時点において有効な仲介を担っていることが保証されている機関を示すものではありません。